

海岸漂着物実態調査結果（令和3年度）について

1 要旨・目的

海岸への漂着物の量とその種類を把握し、海ごみの発生源対策の基礎資料とするため、平成30年度から調査を実施しており、第4回目となる令和3年度の調査結果を報告する。

2 概要

(1) 調査方法

県内の海岸135地点において、年4回、目視で海岸全体の漂着物の量を確認し、200ゴミ袋数に換算することにより、海岸の漂着物量を推計した。

また、その内10海岸において、「海岸線延長10m×海岸奥行」にある漂着物を回収し、種類ごとに分類して計測し、当該海岸の漂着物の種類ごとの重量、体積を推計した。

(2) 調査結果

ア 漂着物の量

- 県内海岸漂着物の年平均値は約48tであり、夏季の増加により、全体として前年度よりも8%上回った。令和3年8月豪雨による河川からの流出などにより、夏季の増加につながったと考えられる。
- 海域ごとの漂着物量の年平均値は西部で約34tと最も多く総量の約7割であり、続いて中部は約11tで昨年度を上回った。東部は約3tであり、前年度と同じであった。
- 季節ごとの漂着量は、全ての海域で冬季が最も多く、総量も冬季が最も多かった。

表1 漂着物量の結果（令和3年度）

区分	県内海全体の漂着物量	海域ごとの内訳		
		西部<広島湾>	中部<安芸灘・燧灘>	東部<備後灘・備讃瀬戸>
年平均	48 t (44 t)	34 t (32 t)	11 t (9 t)	3 t (3 t)
春季	43 t (43 t)	32 t (33 t)	9 t (8 t)	2 t (2 t)
夏季	50 t (33 t)	36 t (26 t)	12 t (6 t)	3 t (1 t)
秋季	44 t (44 t)	32 t (33 t)	9 t (9 t)	2 t (2 t)
冬季	54 t (55 t)	37 t (37 t)	13 t (13 t)	4 t (4 t)

【注1：()内は令和2年度 注2：小数点以下の端数処理の計算上、合計が一部一致しない】

イ 漂着物の組成

- 漂着物の構成割合は、漁業活動に関連するごみ（発泡スチロール製フロート、カキ養殖パイプ）が最も多く、重量で全体の61%を占めており、前年と同様であった。次いで生活由来のプラスチックごみが27%であり前年から割合は減少した。その他のごみ（金属類、木、ガラス、陶磁器等）が12%であり前年から割合は増加した。

表2 海岸漂着ごみの構成割合（令和3年度）

種類	重量比 (%)
漁業活動に関連するごみ	51.9 (49.3)
発泡スチロール製フロート	9.0 (12.2)
カキ養殖パイプ	26.7 (27.7)
生活由来のプラスチックごみ	12.4 (10.8)
その他のごみ（金属類、木、ガラス、陶磁器等）	100 (100)
合計	

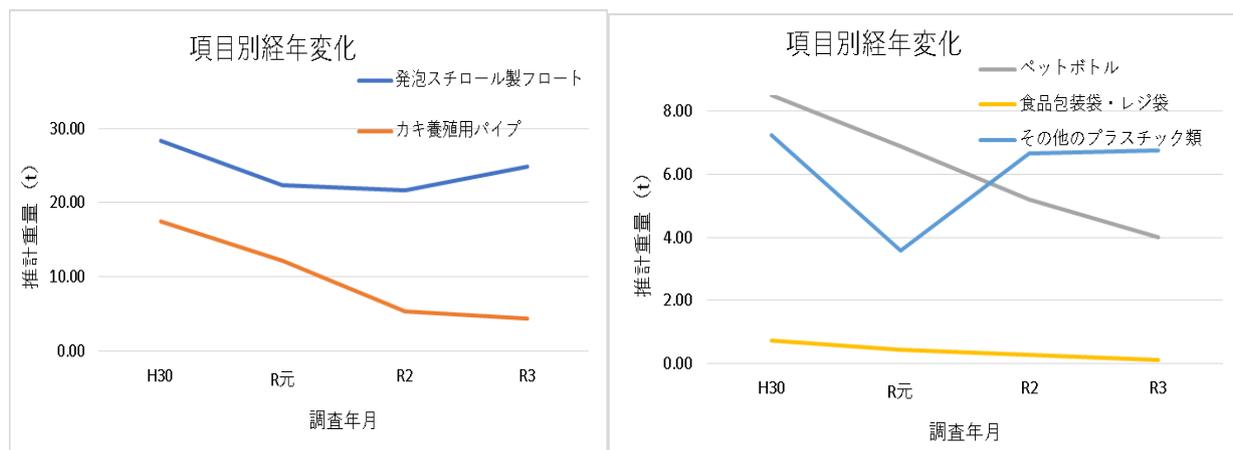
ウ 漂着物の経年変化

- 全量で見ると、平成30年度の西日本豪雨など、年度ごとの降水量の影響が考えられるものの、全体として減少傾向にある。
- 項目別で見ると、カキ養殖パイプ、ペットボトル及び食品包装レジ袋は減少傾向にある一方で、大型で海岸清掃活動による回収処理が困難なフロートや、発生源が不明なその他プラスチック類（プランターや生活雑貨など）は、概ね横ばい傾向である。

表3 広島県内全域における項目別経年変化

全体	プラスチック類					小計	その他 金属類、 ゴム、木、 紙、ガラス・ 陶器	合計 (全量)
	漁業活動関連		生活由来					
	発泡スチロール製フロート	カキ養殖用パイプ	ペットボトル	食品包装袋・レジ袋	その他プラスチック類			
H30年度	28.3	17.5	8.5	0.7	7.2	62.3	10.1	72.4
R1年度	22.3	12.2	6.9	0.4	3.6	45.4	6.8	52.2
R2年度	21.7	5.4	5.2	0.3	6.7	39.2	4.8	44.0
R3年度	24.9	4.3	4.0	0.1	6.8	40.1	7.8	47.9

【注：小数点第2位以下の端数処理の計算上、合計が一部一致しない】



(3) 今後の対応

- 調査結果については、環境白書に掲載するとともに、ホームページで地図上に見える化し情報発信するなど、効率的な海岸清掃活動への活用等を促進するとともに、調査結果を踏まえ、海洋プラスチックごみの削減に向けて、次の取組を実施する。

ア 漁業活動に関連するごみ

かき養殖業者が取り組んでいる流出防止対策の徹底が図られるよう農林水産部局と連携して取り組みを進めるとともに、中長期的には、環境に配慮した素材への転換を検討する。

イ 生活由来のプラスチックごみ

令和3年度に企業等と連携し設立した「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」において、具体的な流出防止対策を推進する。

ウ その他（横ばい状態のプラスチックごみ対策）

長年放置されたフロートを回収・処理するための仕組みづくりや、その他プラスチックの発生源調査などを検討する。

【参考】調査地点及び調査期間（広島県海岸漂着物実態調査より抜粋）

1 県内海岸全域調査地点

1.1 県内の海岸を対象に目視による「県内海岸全域調査」を行い、海岸漂着物の量を把握した。

1.2 県内海岸全域調査地点は図-1に示すとおり前年度と同様とした。（135地点）

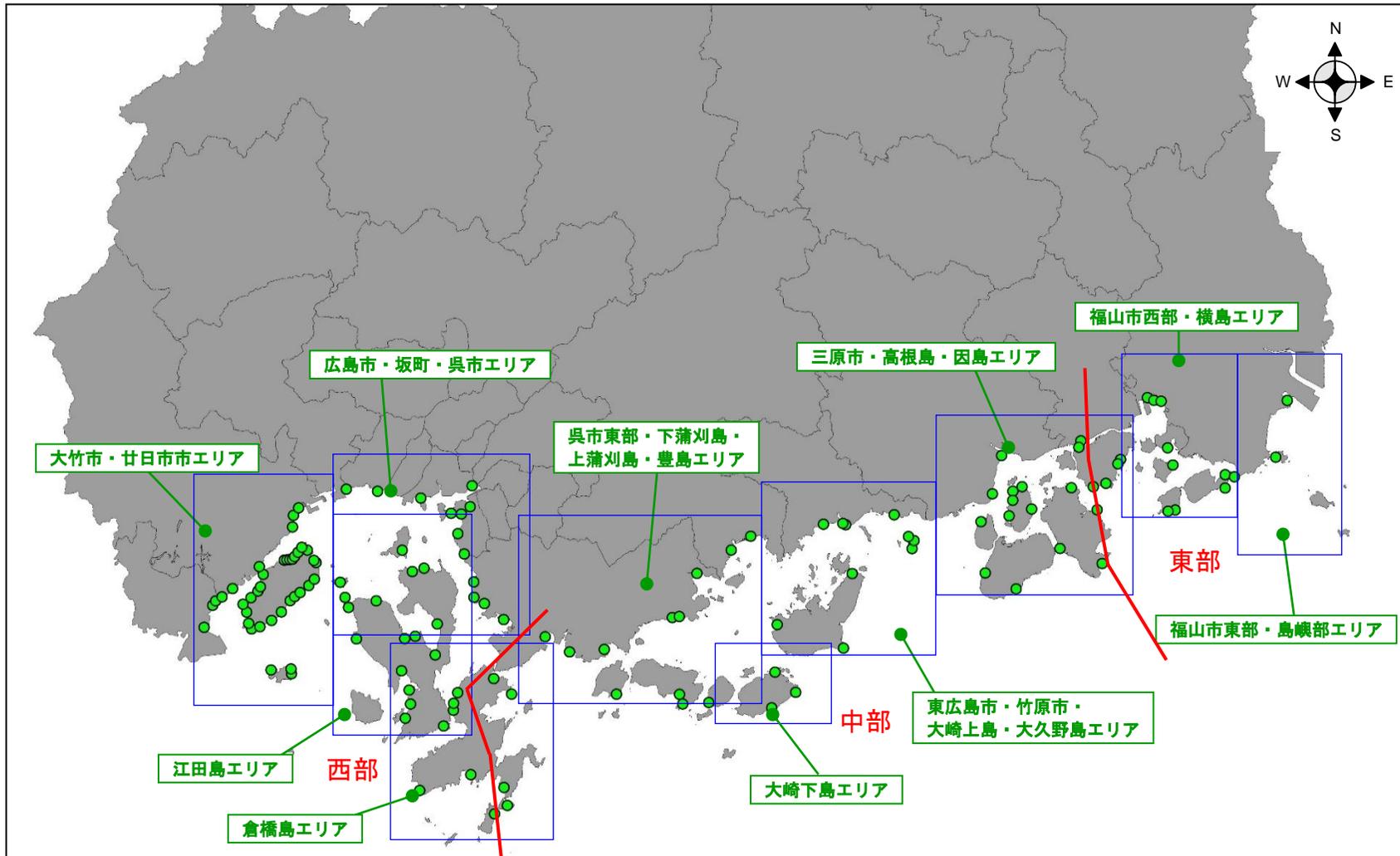


図-1 県内海岸全域調査地点

2 海岸漂着物組成調査

2.1 前年度と同様に代表 10 地点を選定し、「海岸漂着物組成調査」を行い、県全体における海岸漂着物の量と組成を推計した。

2.2 海岸漂着物調査地点は図-2 に示すとおり前年度と同様とした。

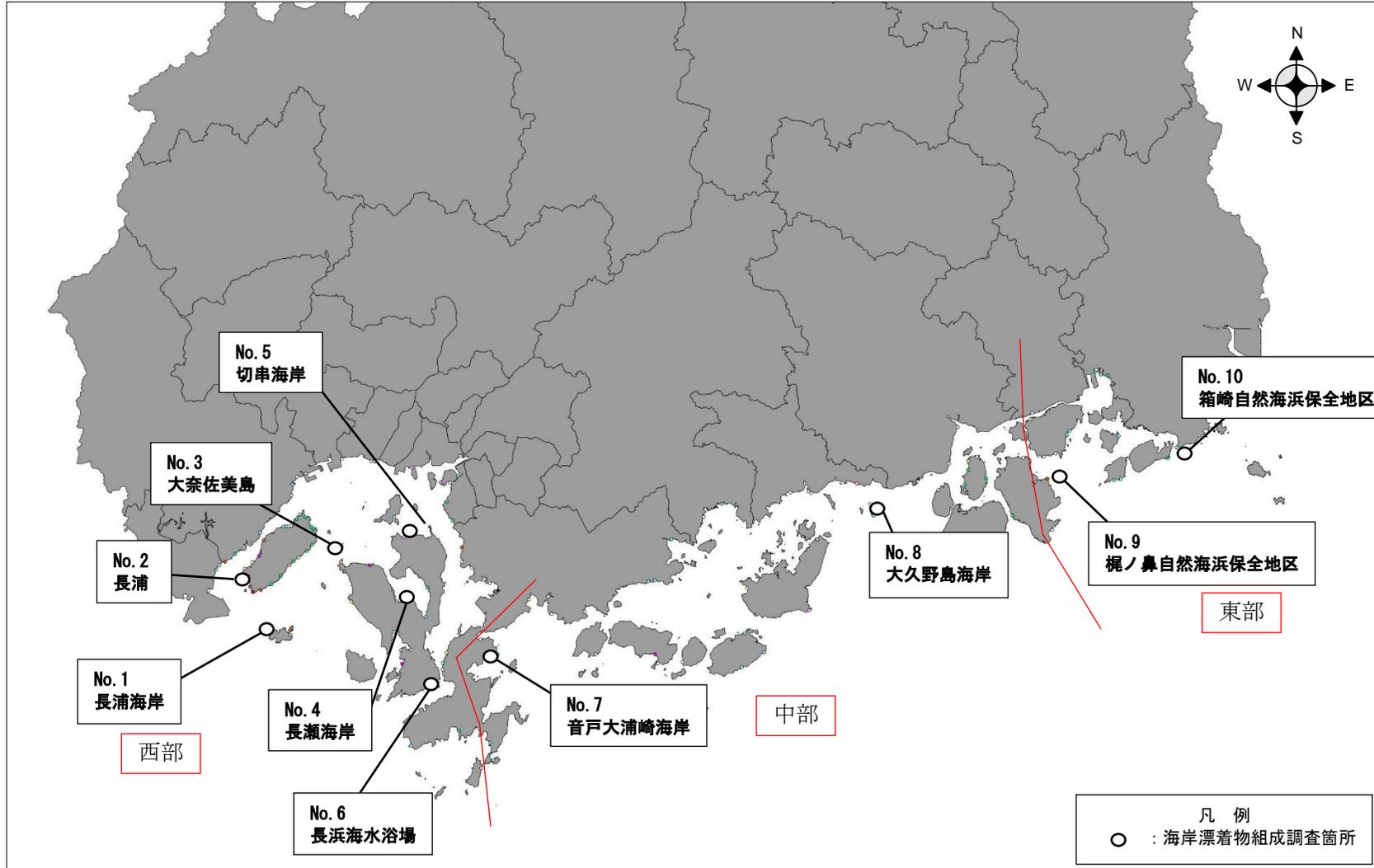


図-2 海岸漂着物組成調査地点

3 調査時期

3.1 県内海岸全域調査

調査は四季調査とし、表-1 に示すと通りの期間に実施した。

表-1 調査実施時期

時期	調査期間	備考
春季	2021年5月12日～5月24日	—
夏季	2021年8月20日～8月31日	お盆明けから調査開始
秋季	2021年11月1日～11月27日	—
冬季	2022年2月3日～2月28日	—

3.2 海岸漂着物組成調査

調査は、四季調査とし、県内海岸全域調査と並行して実施した。

報告書の全体版については、県のホームページに掲載している

HP アドレス : (<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/kaiganhyotyakugomi.html>)